

別冊

おいしいものがたり

～資料館資料編～ ■「新町発足70周年記念企画展 大石田町と金山平三と」より

資料館では現在「新町発足70周年記念企画展 大石田町と金山平三と」を開催中です。おおよそ2年に一度、洋画家・金山平三を中心に据えた企画を催していますが、今回は珍しい作品『陶画 鋤を持つ自画像』をご紹介します。

「陶画」とはその名の通り陶磁器に描かれた絵のことですが、金山平三が陶画制作をはじめたのは大正14年(1925)のことです。高級洋食器メーカーである大倉陶園が、金山含む当時気鋭の芸術家らに絵付けを依頼したことがきっかけでした。

金山平三の絵画といえばその多くが風景画ですが、陶画では描かれる対象がやや異なります。熊や犬、猿やザクロに虫など身近な生き物のほか、浦島太郎などといった童話に取材したモチーフが描かれることもあります。いずれも普段の生業から離れた気楽さや闊達さがあり、画家自身が楽しんで描いていると感じられるものです。そんな中でも今回取り上げる陶画は異色といえるかもしれません。

直径25cmほどの皿には、金山本人と思しき人物の全身像と、その足元に白い犬が描かれています。金山は青いシャツに麦藁帽をかぶり、長靴を履いてやや腰を屈めながら鋤を振っています。耕された畝には支柱が並び、それぞれに野菜札が付けられているのがわかります。上部には「MAITRE KANAYAMA ET SON LOUIS I^{er}」の文字が入られ、「MAITRE」は名人・大家、「LOUIS I^{er}」はルイ1世という意味なので、「名人金山と愛犬ルイ」といったところでしょうか。足元から主人を上目遣いで見上げるルイの表情がとても愛らしく、金山が特に可愛がっていたことを窺わせます。自身の特徴的な鷺鼻やとんがった顎も誇張してあり、全体にユーモラスで戯画的な印象です。

通常芸術家が自画像を制作する場合それは単なる人物像ではなく、自らの内面、思想や意志を反映させた自己表現となります。金山の自画像といえば東京美術学校の卒業制作で描かれたものが有名です。暗がりからじっとこちらを見つめる強い視線からは、これから社会へ打って出ようとする20代の金山の希望や不安、意気込みなど様々な感情が伝わってきます。一方陶画の自画像では慣れない畑仕事に精を出す老境の自分を、なんの気負いもなく自然に描いています。もちろんこれは陶画という特殊な形式であり、本画とは制作に要する時間も意識も異なるものではありません。しかしこの皿は金山が亡くなるまでその枕元に飾られていたと伝わっており、常に側に置いておきたいお気に入りの自分の姿だったのではないのでしょうか。

(大石田町立歴史民俗資料館 大谷 俊継)



「新町発足70周年記念企画展 大石田町と金山平三と」は6月29日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEをはじめました

防災情報や各種行政情報を受け取ることができます。

友だち登録をお願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和7年5月1日現在

世帯数	2,206戸	(-1)
総人口	5,881人	(-7)
男	2,928人	(-8)
女	2,953人	(+1)

(4月中の異動)

出生	1人	転入	13人
死亡	4人	転出	17人

※この人数は外国人も含めたものです。